

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の特徴（和歌山県）

1 教科に関する調査結果

(1) 和歌山県（公立）と全国（公立）の平均正答率

単位：％

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校英語 （3技能）
県	62	56	60	54	487※
全国	61	56	64	57	499※

※ 令和8年度の中学校英語は、4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の全てで CBT*が導入され、平均 IRT*スコアで結果が示されている。令和8年7月時点では、3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）の結果が示されている。9月以降、4技能（「話すこと」を含む。）の結果が公表される。

(2) 和歌山県（公立）平均正答率と全国（公立）平均正答率との差の推移

単位：pt(ポイント)

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校英語 （3技能）
R8	1	0	-4	-3	-12※
R7	1	0	-2	-3	
R6	0	1	-3	-3	
R5	1	0	-3	-1	-2
R4	-1	0	-3	-1	
R3	0	0	-4	-2	
H31 (R1)	0	-1	-3	-1	-1

※ 平均 IRT スコアの差で示されている。

・ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り。

(3) 調査結果の特徴

小学校は、国語が全国平均を上回り、算数は全国平均と同程度の結果となった。

中学校は、全ての教科で全国平均を下回った。

○成果

- ・ 小学校国語では、「知識及び技能」の平均正答率が全国を上回った。
- ・ 小学校算数では、「データの活用」領域の平均正答率が全国を上回った。

●課題

- ・ 中学校国語では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。
- ・ 中学校数学では、具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことに課題がある。
- ・ 中学校英語（3技能）では、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題がある。

2 質問調査結果

○成果

- ・ 小学校国語、算数、中学校数学、英語では、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回り、中学校国語で全国と同程度だった。

【全国差 小国語+1.4pt、小算数+3.9pt、中数学+3.1pt、中英語+5.6pt】→概要 P6(1)②

●課題

- ・ 「5年生まで（中学校：1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。

【全国差 小学校-1.8pt、中学校-4.9pt】→概要 P8(2)⑦

- ・ 「5年生まで（中学校：1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。

【全国差 小学校-0.5pt、中学校-2.9pt】→概要 P8(2)⑧

*CBT…Computer-based Testing：コンピュータ使用型調査の略。冊子を用いた従来の筆記方式の調査は PBT（Paper-based Testing）と表記される。

*IRT…Item Response Theory：項目反応理論の略。児童生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。この理論に基づいて、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準に算出されたものが IRT スコアである。